

# 令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(南中学校)

## 平均正答率

(単位 %)

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
南中	59.8	58.7	64.5	58.6	50.5	50.9	60.1	54.2
埼玉県	61.3	63.1	68.1	59.4	59.1	58.1	62.6	60.0

## 質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		南中	埼玉県	南中	埼玉県	南中	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	92.6	89.9	90.8	91.0	93.8	92.5
	・だれに対しても進んで挨拶をすることができる	90.0	82.8	88.3	82.6	86.1	84.2
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉づかいができる	94.7	87.3	90.9	87.4	93.0	90.3
学習習慣	・学校の宿題をしている	96.6	96.7	96.7	93.0	96.1	92.5
	・学校の授業の予習や復習をしている	87.3	80.7	79.1	69.5	72.9	68.6
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している	88.6	74.0	82.3	71.3	82.9	78.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	52.3	50.7	38.6	37.7	37.2	35.4
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	98.7	94.1	98.7	94.4	95.4	95.3
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	76.7	59.8	46.4	44.2	52.0	40.4
その他	・自分には、よいところがある	79.3	76.5	79.0	72.4	71.3	69.7
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	76.7	76.0	71.2	67.8	73.7	69.2
	・将来の夢や目標をもっている	87.4	83.6	85.0	73.3	83.0	69.8

## 南中の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

### 【国語】

- 全学年とも説明的文章の読み取りの正答率が高かった。
- 資料の内容をもとに自分の意見を二段落で書く問題で正答率が高い学年があった。
- 歴史的仮名遣いなどの基礎的な問題の正答率が高かった。
- どの学年も漢字の「書く」ことを苦手としている生徒が多い。
- 全学年とも文法事項の問題の正答率が低かった。

### 【数学】

- 思考・判断・表現の評価が高く文章題、記述式問題での正答が高い学年があった。
- 日常の生活の場面を、文字を用いた式で表す問題での正答が比較的高かった。また、無解答の問題が少なかった。
- 二元一次方程式の解の意味、箱ひげ図を見て中央値を知る、確率についての理解、具体的事象から一次関数とみて特徴を捉える問題での正答が高かった。
- 学年によっては多くの領域で正答の割合が低調で、数学を苦手としている生徒が多い。
- 全学年を通して分数、少数の計算、正負の数も含めての四則混合計算を苦手としている生徒が多い。

### 【英語】

- 「聞くこと」の問題には無回答もすくなく答えることができる。
- 「聞くこと」の正答率がほかの領域に比べ県平均を上回っている問題が比較的多かった。
- 「書くこと」の問題の正答率が県平均に比べて低いものが多く、また無回答が多い。

### 【質問紙】

- 自分からあいさつができ、相手の気持ちを考えた言動ができる生徒が多い。
- 学習への取り組み状況は、全学年で県平均を上回っている。
- 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦する生徒が学年が上がるほど多い。
- 将来の夢や目標を持っている生徒が全学年で多い。
- 学習に関しては、県平均以上に取り組んではいるが結果に繋がっていない。

【国語】

- ・漢字の読み書きに繰り返し取り組む。
- ・文法や言語事項の問いに取り組み、定着に努める。
- ・具体的な事実から自分の意見を書く時間を、授業で意図的に取り入れる。

【数学】

- ・授業を通して、苦手としている単元などについて、改めて取り上げ、関連している内容について想起させる。また、苦手とする計算については小テストなどを計画的に行い。やり方の確認とその定着につとめる。
- ・特に基礎的な計算などを苦手としている生徒については、補充学習などを内容ごとに計画し、分数・小数などの計算にも自信をもって取り組めるようにする。
- ・発展的な問題も提示し、より深く学習する機会を授業などの中につくる。

【英語】

- ・英語に関わらず自分の思っていること、考えていることを表現するアウトプットの場面を多く設ける。
- ・英語にしたい日本語を様々な言い方に言い換え、既習の文法を使って表現する練習を繰り返し行う。

【その他】

- ・学校では、学校生活の中で意図的に文章を書く場を増やし、理由を表現することを取り入れ、生徒の言語活動の充実を図る。
- ・家庭学習では、学習の質を高められるよう指導する。
- ・「早寝、早起き、朝ご飯」、「手洗い、うがい、換気」など、家庭での生活習慣のさらなる徹底を呼びかける。